

# ちとせ 地域福祉ネットワーク通信

## Together

～一緒に～

平成 28 年 12 月 発行  
事務局：千歳市保健福祉部  
福祉課総務係  
☎ 24-0292  
Fax 22-8851

平成 28 年度

### 平成 28 年 11 月 15 日（火）第 1 回ちとせ地域福祉ネットワーク会議を開催しました！

- テーマ：「地域食堂」～高齢者や子育て世代が気軽に集える居場所づくり～
- 参加者：青少年育成市民会議、民生委員児童委員連絡協議会、社会福祉協議会、地域生活支援センター、ハローワーク千歳、千歳市教頭会、北陽高校、もったいないわ 千歳、北星学園大学、祝梅デイサービスセンター、居宅介護支援事業所しらかば、ゆうしんかん訪問看護ステーション、元市民会議委員等、福祉分野の第一線で業務に従事している方や地域に密着した活動を行っている方など、地域福祉に関心のある方合計 30 名が参加されました。

#### ○会議内容

最初に、NPO法人ゆめみ～る 副理事長 山田正幸氏に、NPO法人ゆめみ～るを立上げることになったきっかけや立上げに当たって必要なこと、また、運営についての実践的な内容についてご講演いただきました。

#### 【講演概要】

1. 登別市社協において、平成 17 年度より福祉実践計画を立て、住民座談会を開催し、今、市民の困っていることは何か、何が必要か、などの話し合いと、アンケート調査の実施を行い、いろんな問題、課題を抽出した。
2. 問題、課題解決のため、居場所づくりに決定。平成 19 年より、一年かけて、場所、建物、人、資金等の具体策を検討した。
3. 資金提供を申し出た方のおかげで、協力者も増え、場所はコンビニ跡地に決まり、平成 20 年に NPO 法人ゆめみ～るがスタート。地域食堂で収益し、運営する方向となったが、当初は、収益はほとんどなかった。
4. 1 年も持たないだろうと言われたこの事業が、9 年目を迎えられた大きな理由は、参加する人、手伝う人が大勢いて、差し入れなど地域の応援もあり、収益金が上がっていることである。地域の協力なしではやれなかった。
5. 新たな事業を立上げるに当たっては、意見を出し合うことでヒントになるし、月 1 で、ごはんを食べるところから始めるのもひとつと思う。

#### 【ゆめみ～るを立上げるきっかけとなった地域の問題、課題】

##### ◆高齢者の切実な声

- ・一人暮らしで話す人がない。毎日テレビと会話している。
  - ・行く場所がない。デパートのロビーや病院の待合室で一日過ごしている。
  - ・高齢者夫婦は、老々介護しているから一人暮らしより大変だ。
  - ・どこに行くにも車がないので行けない 昔は近所に小売店があって雑談もできたが、今は個人の店がない。
  - ・昔は風呂屋さんがあったので、一日のいつ行けば、だれがいるかわかる。背中を流しながら、裸の付き合いで話もできた
- 今のお年寄りには、不便を期しているという、地域の課題が見えてきた。



## ◆母親の切実な声

- ・転勤族で親が近くにいない。育児の相談をできる人がいない。
- ・ひとり親で子育てに悩んでいる。

## ◆生活の不便

- ・近所の店が閉店して、買い物に行くのが大変になったという切実な訴え。
- ・お年寄りと話す場所、機会がないなど。

## 【めざす居場所の姿】

- ・いつでも立ち寄れて、いつでも帰ることができる。
- ・誰もが利用できる。  
子ども、高齢者、障がい者、サラリーマン、主婦といった様々な立場の人々が利用できる。
- ・時間を自由に過ごすことができる。  
一人でも気楽に来れば、皆でおしゃべりできる。
- ・経験や能力を生かすことができる。  
自分の能力を見出すことで、生きがいをつくる。
- ・自分の存在を認識できる。  
人とのふれあい、助け合いの中で自分に自信を持つ。居場所として、気軽に参加できるような地域食堂にしよう。

## 【ゆめみーるの活動内容】

- ・地域食堂（居場所づくり）と弁当の配食（一般向け）
- ・地域支援活動として、ふれあい生き生きサロン。ある時は「利用者」ある時は、「運営の担い手」高齢者が、世間話、麻雀をしたりさまざまな人たちが出合い、ふれあい、共感を生み出している。
- ・弁当の見守り配食支援（一日おき、1週間に1回、好きな回数）。必ず手渡しをして、会話をする他、配食日誌をつけて、調子の悪い方などは、ケアサービス、民生委員への連絡、必要に応じては、ご親族へも連絡している。
- ・買い物支援として土曜の朝市を実施。朝市を開くのは、市内の農家であったり、産地直売である。
- ・ふれあい子育てサロンとして、子育て中のお母さんたちの居場所をつくり、放課後児童クラブでは、子どもたちの居場所を作った。親が、迎えにくるまで、誰かが面倒をみている。
- ・放課後子ども教室として、学校の空き教室を利用（火・木）し、夏は5時まで、冬は4時までの間、学習や、運動をし、また、月に1、2回はゆめみーるを利用することで、学校にない、開放感が喜ばれている。その他、農園を作っていて、秋に収穫し、子どもたちを交えて料理を作ったり、川遊び、栗拾い、雪あそびをするなど、イベントが多種に渡っていて、好評である。
- ・その他、ゆめみーるの職員が自主的にパソコン学習会、そば打ち教室、訪問美容なども開催している。



【グループワーク】テーマ「食のある居場所づくり」  
各グループ毎に発表をしました。

班	① 対象者	② 必要なもの（人・場所・資金・情報など）
A班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者</li> <li>・障がい者</li> <li>・ひとり親世帯</li> <li>・誰でも</li> </ul>	<p>孤立しない、させないが大切である</p> <p>場所は、町内会館、コミュニティセンター、コンビニの跡地を利用する。一緒に作れて、一緒に食べれる。</p> <p>誰でもが望ましいが対象を絞って開催し、徐々に広げていく。</p> <p>自分にできることとして、話し相手のほか、こんな所があるといって、誘うことはできる。</p>
B班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者</li> <li>・子ども</li> <li>・子育て世代</li> <li>・居場所のない若者、ひきこもり</li> </ul>	<p>駄菓子屋さんを永く経営している高齢者が実際にいて、子どもたちが来ている。</p> <p>場所は、町内会館など集まりやすい場所。</p>
C班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも気軽に</li> </ul>	<p>食事のできる場所（個人営業の食堂の定休日）。</p> <p>大浴場（高齢者施設等の空き時間）</p> <p>お手伝いを、ひきこもりの人をお願いする、また、繋いでくれる人。</p> <p>学校を巻き込んだ活動にする。（子ども、若い親）</p>
D班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども</li> <li>・ひきこもり</li> <li>・誰でも</li> <li>・高齢者</li> <li>・介護をしている人の家族</li> </ul>	<p>絵本（家庭文庫）、自由に過ごせる場所。</p> <p>ひきこもりのサポートステーション。</p> <p>ボランティアサークル、ものづくりサークル等より情報発信（長続きをさせるため）。</p> <p>家族会、情報交換の場。</p>
E班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしの人</li> <li>・お年寄り</li> <li>・就職できていない人</li> <li>・ネグレクト家庭の児童</li> </ul>	<p>場所は、既存のものを利用（図書館、図書室などで、本を読む）</p> <p>あいさつのできる子を育てる。</p> <p>一日1回でも温かい食事のできる環境をつくる。</p> <p>子どもは、地域全体で見守る、育てる意識が必要。</p>

※各班の特徴的なものを抜粋

### 【まとめ】

- ・地域に埋もれている課題を住民座談会等により、表面化させること、また、その課題を解決するために居場所をつくるなど、課題を見つけて解決する取組みを、簡単ではないができないことではないので、少しずつでも取り組むことが大事である。
- ・対象者について、高齢者ばかりでなく若い世代に光を当てることは、とても大事である。こども食堂がいい例である。

☆今後も、ちとせ地域福祉ネットワーク会議を実施します。



### 会議でわかりあえる4つのこと！

- ☆地域の福祉の現状をわかって。 (地域の福祉の状況を共有します)
- ☆地域で困っている人のこと（福祉ニーズ）をわかって。 (地域にある福祉課題や求められる支援の情報を共有します)
- ☆地域の誰が何をしているのかをわかって。 (地域に関わる他職種の人が集まるのでお互いの顔、お互いの役割がわかり、より連携がとりやすくなります)
- ☆地域の住民ができることをわかって。 (福祉ニーズが広がる中で住民ができる助け合いの内容がわかります)